



希 望

多治見市立笠原中学校
令和7年度 学校だより『希望』
第6号 令和7年8月27日(水)発行

Challenge (挑戦)

校長 熊崎 健一

夏休み最終日、昼食を買いに地元のスーパーに立ち寄りました。ある保護者の方にお会いしました。そのお母さんは、満面の笑みで「やっと夏休みが終わります!」とおっしゃいました。私もこれまでの経験上「お母さんも、本当にお疲れさまでした!」と応じました。その後は、ご想像のとおり「やっぱり給食はありがたい!(私の弁当選びも必要なくなる)」というような話につながっていったわけです…。お子さんが家庭で過ごす時間が長くなる夏休みは、ご家族にとっていろんな意味で大変な期間であったとお察しする一方で、きっと夏休みだからこそその家族の営みもあったのではと想像します。生徒が“ホームグラウンド”でたっぷり時間を過ごす中で重ねた経験は、学校中心の生活だけでは得ることのできない成長につながったのではないのでしょうか?また、大きな事故やケガなどの連絡もなく、生徒が健康で元気に学校再開の日を迎えることができホッとしています。本当にありがとうございました。

さて、今年度は、来年度の義務教育学校開校を見据え、様々な取り組みを試行しています。小中統一の日課表の運用や小中の教員の相互乗り入れによる教科担任制の実施など昨年度から取り組んできていることに加え、本年は、児童生徒会活動や学校行事の合同実施に取り組んでいます。早速29日には、スポーツフェスティバルの結団式があります。夏休み前までに団リーダーなどは選出済みですが、小・中合同の体育的行事に向けて職員もこの夏休み期間中に知恵を絞って準備を進めてきました。何といても初めての合同開催ですから、小中合同の実行委員会を中心にほぼゼロベースからの計画です。「例年に倣って…」といかないのになかなか大変なのですが、子供たちとともに新しい形での開催をめざして“挑戦”しています。そして何より「子供たちにとって楽しい行事、思い出に残る行事、力を付ける行事にしたい。」「子供たちとともに、職員も夢中になり楽しめる行事にしたい。」「前期の締めくりにふさわしい充実した行事にしたい。」と願って取り組んでいるところです。平日開催であることや駐車台数が限られご不便をおかけすることなど、保護者の皆様にもご理解・ご協力いただかねばならないことが出てきます。それについては、後日、改めてお知らせしますが、10月1日にはさわやかな秋晴れの下(残暑厳しい?)、子供たちの笑顔が弾けるスポーツフェスティバルを開催したいと考えていますので、どうかよろしく願います。

早朝などは、ほんの少しですが秋の気配も感じられるようになってきました。一方で、ご承知のように今年の夏の暑さは記録づくめであり、まだまだ暑い日が続くでしょう。生活リズムも変わりますので、熱中症対策を含む健康管理には十分気を付けて過ごせるよう、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

～ 多治見市【親育ち4・3・6・3たじみプラン】親育ちコラム ～

「ちょっと助けてくれるかな?ありがとう!助かったよ!」

残暑の中、それぞれの思いを抱えて、子供たちが学校生活を再スタートしました。

私たちが誰かに「助けて」を伝えることの難しさは昨年度の小欄でも触れました。相手に受け入れてもらえないことへの恐れ、能力のなさやあきらめを告白する気がして、傷つくプライドの痛み。私たち、まして子供たちにとって、そんな心の中を無防備にさらけ出すことは決して簡単ではありません。そう考えると「ちょっと助けてほしい」と、その子が言えることの値打ちに改めて気付きます。それは他者への信頼と心のエネルギーが増大した証であり、自立に向けた大きな一歩を踏み出した瞬間に他なりません。夏休み明け、期待と不安の間で揺れているその子に、あえてごく簡単なことで「ちょっと助けてくれるかな」と声をかけてはどうでしょう。そうして、例えいやいやだったとしても、応えてくれたら「ありがとう!助かったよ!」と朗らかに伝えます。できなくて困っている状態は、決して恥ずかしくなんかないんだよ。つながって、乗り越えればいいんだ。今度は君の「助けて」を聴く番だ。大丈夫いつでも待っている。こんなメッセージが、心に伝わり、少しずつエネルギーが変わっていくと信じます。 【教育推進課 家庭教育担当】

